

2019年、α Mプロジェクトが生まれ変わります

武蔵野美術大学が主催するα Mプロジェクトは、去る2018年に活動30周年を迎え、2019年にはその拠点となるgallery α Mを馬喰町に開廊して10年になります。これまでの活動は、大型のコマーシャルギャラリーに引けを取らない緊張感のある空間と質の高い展示内容によって、日本のアートシーンの中で重要な役割を果たしてきました。

節目となる今年2019年、通常の企画展示と連動するかたちで、新たな企画「α M+ (アルファエムプラス)」をスタートさせます。現在のアートシーンは、柔軟なスタンスの新しいギャラリーの台頭、またアートコレクティブと言われる様々な形態の新しい動向が顕著であり、「α M+」はこのような状況を踏まえて企画されました。

α Mプロジェクトが大学と独立したかたちで、第一線で活躍するキュレーター・批評家のキュレーションによる質の高い展示を継続することが重要なのは言うまでもありませんが、α Mプロジェクトは発足当時からノンプロフィット(非営利)であり、オルタナティブ(既存のものに替わる新しいかたち)であることこそが、その在り方の根幹です。

それは現在起こっているアートシーンにおける新たな動きと親和性が高く、今改めて自由で柔軟なギャラリーとしての在り方に立ち返るべきだと考えます。

新しいα Mプロジェクトでは、キュレーターによるコンセプトをベースとした年間5本の企画展示に加え、「α M+」として独立した展示を1本開催します。

2019年度キュレーターの藪前知子氏(東京都現代美術館 学芸員)は、同美術館による大型企画展を担当する他に、2017年札幌国際芸術祭の企画、また様々な若手作家対象のコンペの審査員を歴任するなど、常に最新の美術の現場でアグレッシブに活動しているキュレーターです。藪前氏の社会的問題に鋭敏に反応したコンセプトと「α M+」の企画を呼応させながら、新しいα Mプロジェクトの可能性を探っていききたいと思います。

α Mプロジェクト ディレクター 袴田京太郎

α Mプロジェクト2019

東京計画2019

Plans for TOKYO 2019

キュレーター：藪前知子(東京都現代美術館学芸員)

「東京計画2019」 藪前知子

二度目のオリンピックのカウントダウンを控え、大きな力によって変動し続ける東京。再開発が進み清潔に整えられていく一方で、複数のキャラクターを持った街の集合体という特徴は薄れ、画一化と均質化が進み、人々の行動様式にも影響を与えています。今年度のα Mプロジェクトでは、5組のアーティストたちの実践により、その諸相をギャラリーに転送し、そこに潜む問題に言及しつつ、単一の経験やシステム、アイデンティティからの脱却と、別の可能性を提示したいと思います。

シリーズタイトルは、戦後の混乱から高度経済成長に突入し、東京オリンピックへと向かって行く時代の流れの中で、1960年、丹下健三研究室が策定した「東京計画1960」を下敷きにしています。湾岸地域と超高層ビルなど海と空への開かれた展開を提案し、開発や成長というヴィジョンに美しい形を与えた幻の都市計画です。東京の爆発的な発展が予言される一方で、すでに都市化が行き詰まりを見せはじめていたアメリカでは、その翌年に、ジェイン・ジェイコブズという一人の女性が、大規模で単一的な開発を批判し、生活者の視点から、異なる要素のパッチワークとしての都市像を提起しています。しかし、それから半世紀以上が経った現在も、東京は大都市という夢を捨てることなく、スクラップ&ビルドの舞台であり続けています。都市は今なお、人々の幸福な生を保証するシステムとして有効なののでしょうか。この連続展覧会をプラットフォームに、「祭りのあと」をサバイブするための指針が生み出されることを期待したいと思います。

会期

会期1:2019年4月6日(土)~5月18日(土)(特別休廊4/28~5/6):毒山凡太郎
会期2:2019年6月1日(土)~7月13日(土):風間サチコ
会期3:2019年7月27日(土)~9月14日(土)(夏休み8/11~19):Urban Research Group
会期4:2019年9月28日(土)~11月9日(土):ミルク倉庫+ココナッツ
会期5:2019年11月30日(土)~2020年1月18日(土)(冬休み12/26~1/6):中島晴矢

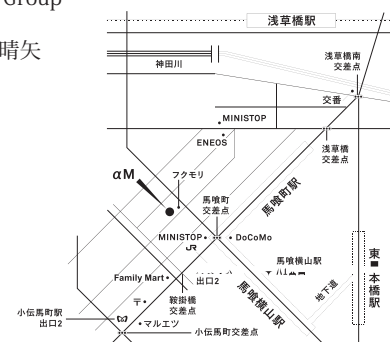
会場:gallery α M ギャラリーアルファエム

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-2-11アガタ竹澤ビルB1F
tel:03-5829-9109 fax:03-5829-9166 日・月・祝休 11:00~19:00
<http://gallery-alpham.com>

gallery α Mは、質の高い表現と可能性を有するアーティストと、斬新な価値を発信できるキュレーターの活動の場として、武蔵野美術大学が運営するノンプロフィットギャラリーです

主催:武蔵野美術大学 運営:武蔵野美術大学α Mプロジェクト
広報・カタログデザイン:松本弦人

■本展に関するお問い合わせは下記までお願いいたします■
gallery α M ギャラリーアルファエム alpham@musabi.ac.jp
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-2-11アガタ竹澤ビルB1F



交通アクセス
都営新宿線[馬喰横山] A1出口より徒歩2分
JR横須賀線・総武快速線[馬喰町]西口2番出口より徒歩2分
日比谷線[小伝馬町]2、4番出口より徒歩6分
都営浅草線[東日本橋]より徒歩6分

α M2019 ゲストキュレーター プロフィール

● 藪前知子 (やぶまえ・ともこ) 東京都現代美術館学芸員

1974年東京都生まれ。東京都現代美術館学芸員。これまで企画担当した主な展覧会は、「大竹伸朗 全景 1955-2006」(2006)、「MOTコレクション 特集展示 岡崎乾二郎」(2009)、「山口小夜子 未来を着る人」(2015)、「おとなもこどもも考える ここはだれの場所?」(2015)、「MOTサテライト 2017春 往来往来」(2017)、「百年の編み手たち:流動する日本の近現代美術」(2019)(以上、東京都現代美術館)など。札幌国際芸術祭2017の企画チームに参加。キュレーションの他に、雑誌、ウェブ、新聞等に日本の近現代美術についての寄稿多数。

α M2019 作家 プロフィール (会期順)

● 毒山凡太郎 (どくやま・ぼんたろう)

1984年福島県生まれ。東京在住。主な個展に、2018年「Public archive」(青山 | 目黒、東京)、2016年「戦慄とオーガズム」(Komagome SOKO、東京)、「経済産業省第四分館」(反原発美術館、霞ヶ関、東京)。主なグループ展に2019年「「つないでみる」-六本木クロッシング2019-」(森美術館、東京)、「Assembling」(K11 Art Mall、瀋陽、中国)、2017年「他者と出会うための複数の方法」-黄金町バザール2017-(八番館 | 黄金町、神奈川)など。



毒山凡太郎
「Public recording -Censored-」2018年
ビデオ | 03分22秒 | © Bontaro DOKUYAMA



毒山凡太郎
「経済産業省第四分館」2016年
ビデオ・インスタレーション | 18分37秒
© Bontaro DOKUYAMA 会場撮影=森田兼次



毒山凡太郎
「戦争は終わりました」2017年
ビデオ | 05分13秒 | © Bontaro DOKUYAMA

● 風間サチコ (かざま・さちこ)

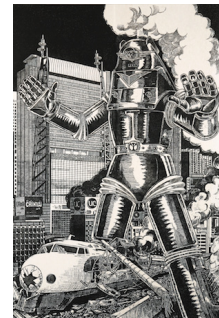
美術作家。1972年東京生まれ。1996年武蔵野美術学園 版画研究科修了。「現在」起きている現象の根源を「過去」に探り、「未来」に垂れこむ暗雲を予兆させる黒い木版画を中心に制作する。1998年より木版画を中心とした作品を発表し、国内外で注目を集める。近年の主な展覧会に2018年、「ディスリンピア 2680」(原爆の図丸木美術館)、2017年「ヨコハマトリエンナーレ」(横浜美術館)、2016年「光州ビエンナーレ」(光州ビエンナーレホール)、「電撃!!ラッダイト学園」(無人島プロダクション)、2015年「2015 アジアンアート ビエンナーレ」(国立台湾美術館)、2013年「六本木クロッシング」(森美術館)など。



風間サチコ
「風雲13号地」2005年 | 和紙、墨汁、木製パネル
Courtesy of the artist and MUJIN-TO Production



風間サチコ
「RINKAI・沼・90」2009年 | パネル・和紙・墨汁
80.3×80.3cm | 撮影=宮島径
Courtesy of the artist and MUJIN-TO Production



風間サチコ
「汽笛一声(満鉄人現る)」2007年
パネル・和紙・墨汁
180×120cm | 撮影=木奥恵三
Courtesy of the artist and MUJIN-TO Production

● Urban Research Group (あーぱんりさーちぐるーぷ)

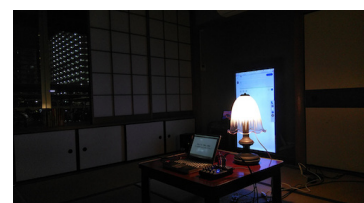
アーティスト、インディペンデント・キュレーター、DJとして活動する石毛健太とwebエンジニア、アーティストとして活動する垂水五滴によるアートコレクティブ。「都市論の再考」をテーマに様々なメディアによって現代の都市の姿を捉える試みを発表、キュレーションしている。2018年、石毛の実家でもある品川区八潮団地集会所にて「変容する周辺 近郊、団地」を開催し活動を開始する。同年、CINRA.NET主催、「NEW TOWN2018」内展覧会「SURVIBIA!!」に参加。



「変容する周辺 近郊、団地」2018年
会場風景(左から)中島晴矢.a.ka DOPE MEN/Scrap,
Run & Build/N.T. State Of Mind,
ryusei etou/n階から目薬、名越啓介/fammilia



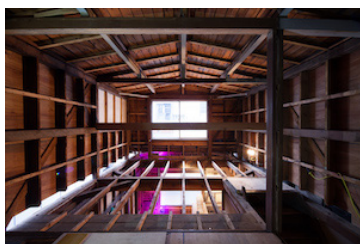
「変容する周辺 近郊、団地」2018年
会場風景
EVERYDAY HOLIDAY SQUAD/curry life



「変容する周辺 近郊、団地」2018年
やんツー/高齢者のための音声入力機能を用いた
自動つづやきシステム

●ミルク倉庫+ココナッツ (みるくそうこ+ここなっつ)

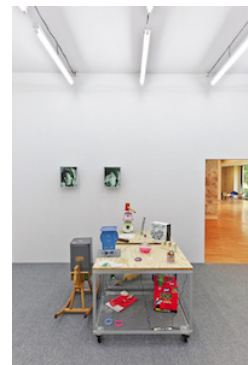
2009年に結成したミルク倉庫に、2015年よりアーティストユニットのココナッツが加わり、現在は7名でミルク倉庫+ココナッツとして活動。メンバーそれぞれが、電気や電子制御、映像、音響、エディトリアルデザイン、建築や土木系技術、造園などの専門的な技能を有し、自ら、共同のアトリエの改修や改装をおこない運用する。ものに備わる潜在的な機能の発見や、道具と身体の間から着想し制作をおこなう作品を特徴とし、展示やイベントなどの企画もおこなう。2016年、「Art Fair 2016—Various Collectors Prizes」にて、3331 Arts Chiyoda賞 Silver Prize受賞。2017年、「清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2017」大賞受賞。主な個展に、「Chewing Machine チューイングマシン」(2017年/S.Y.P. art space)、「家計簿は火の車」(2016年/3331 GALLERY)、「ミルク倉庫の出張台所」(2011年/路地と人)など。主なグループ展に、「タイムライン — 時間に触れるためのいくつかの方法—」(2019年/京都大学総合博物館)、「清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2017—身体のかくえ」(2017年/岐阜県美術館)、「所沢ビエンナーレ'引込線'2011」(2011年/旧所沢市立第2学校給食センター)など。主な企画に、「無条件修復 UNCONDITIONAL RESTORATION」,「ミルクイーストパブナイト——イン・タヴァン・エールハウス」(ともに、2015年/milkyeast)などがある。



「無条件修復」展示風景
主催=ミルク倉庫(2015年)
Photo by Shu Nakagawa



ミルク倉庫+ココナッツ
「家計簿は火の車」 2016年
奥から:《家計簿は火の車のための什器
(ブックホイール型—アゴスティノ・ラズリに倣って)》、
《家計簿は火の車のための什器(マガジンラック型)》、
《家計簿は火の車のための什器(ハードカバー型)》
Photo by Azumi Kajiwara



ミルク倉庫+ココナッツ
「cranky wordy things」 2017年
モニター、秤、紙袋、壺、ビスタチオ、フラスコ、
木槌、モーター、ペットボトル、ポリタンク、他
Photo by Azumi Kajiwara

●中島晴矢 (なかじま・はるや)

1989年神奈川県生まれ。法政大学文学部日本文学科卒業、美学校修了。美術、音楽からパフォーマンス、批評まで、インディペンデントとして多様な場やヒトと関わりながら領域横断的な活動を展開。主な個展に「麻布逍遥」(SNOW Contemporary/東京 2017)「ベネローベの境界」(TAV GALLERY/東京 2015)「上下・左右・いまここ」(原爆の図 丸木美術館/埼玉 2014)「ガチン コーニュータウン・プロレス・ヒップホッパー」(ナオ ナカムラ/東京 2014)、キュレーションに「SURVIBIA!!」(NEWTOWN 2018/東京 2018)、グループ展に「変容する周辺 近郊、団地」(品川区八潮団地内集会所/東京 2018)「明暗元年」(space dike/東京 2018)「ニュー・フラット・フィールド」(NEWTOWN/東京 2017)「ground under」(SEZON ART GALLERY/東京 2017)、アルバムに「From Insect Cage」(Stag Beat/2016)、連載に「アート・ランブル」(太田出版)など。



中島晴矢
「麻布逍遥」 2017年
video | 18' 40"



中島晴矢
「Shuttle RUN for 2020」 2017年
video | 7' 46"



中島晴矢
「バーリー・トゥード in ニュータウン」 2014年
video | 24' 21"

α M+ (アルファエムプラス)

「α M+ (アルファエムプラス)」は2019年から始まる新たな企画展示です。自由で柔軟なギャラリーの姿に立ち返るべく、今年度は、アートコレクティブ「国立奥多摩美術館」をお招きし、新しいα Mプロジェクトの可能性、これからのギャラリーの在り方を探っていきます。

会期：2020年2月1日(土)～3月14日(土)

作家：国立奥多摩美術館

会場：gallery α M

作家プロフィール

●「国立奥多摩美術館」沿革

2012年06月：「国立奥多摩美術館」企画

2012年10月：「国立奥多摩美術館Ⅰ～青梅ゆかりの名宝展～」実施

2014年03月：rooms28「人間時計」参加

2014年09月：「国立奥多摩美術館Ⅱ～13日間のプレミアムな漂流～」実施

2016年09月：「国立奥多摩映画館Ⅲ～森の叫び～」実施

2017年09月：六本木アートナイト「24時間国際人間時計」参加

2017年12月：「国立奥多摩美術館_生きる①酒井貴史」実施

2018年05月：「国立奥多摩美術館_生きる②佐塚真啓」実施

2018年07月：銀座 蔦屋書店「国立奥多摩美術館_生きる②佐塚真啓 巡回展」実施

2019年10月：「国立奥多摩美術館Ⅳ～10月のオーロラ～」実施予定



国立奥多摩美術館 イメージ写真



国立奥多摩美術館 イメージ写真



国立奥多摩美術館
「六本木アートナイト 24時間国際人間時計」(2017.10)